第２４期　国立市社会教育委員の会（第２１回定例会）会議要旨

令和５年１月２４日（火）

［参加者］日野、砂押、矢野、桒畑、中野、朝比奈、倉持、生島

［事務局］井田、土方、高橋

生島議長　それでは、第２４期国立市社会教育委員の会、第２１回の定例会になりますが、時間になりましたので開会したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、笹生委員と石居委員から欠席の御連絡をいただいております。倉持副議長はもうじきいらっしゃるのではないかと思いますので、いずれにしても定足数には達しておりますので、本日の会議を始めたいと思います。

それでは、まず本日の配付資料につきまして、事務局から御説明をお願いいたします。

事務局　事務局でございます。本日もよろしくお願いいたします。

お配りしている資料の確認をさせていただきます。

まず、次第が載っている山を御覧ください。一番上が次第でございまして、その下に資料１、資料２とおつけしているのですが、その間に、本日御欠席の石居委員から資料が出されていましたので、番号は振っていないのですけれども、追加資料という扱いで提出させていただいております。

もう１つの山を御覧ください。前回、第２０回の議事録でございます。こちらの内容について修正等ございませんでしたら、市のホームページに掲載させていただきます。それから、公民館だより、図書室月報をおつけしてございます。いんふぉめーしょんについては、前回の会議の中で１月分をお渡ししておりますので、今回はお配りするものはございません。

配付資料は以上でございます。

生島議長　ありがとうございます。

本日は資料２として、本会への要望書が出ています。今後の会議の運営にも関わる内容ですので、先に内容の説明をお願いいたします。

事務局　事務局です。資料２を御覧ください。国立市社会教育委員の会宛てに要望が出ておりますので、御紹介させていただきます。

提出者は記載のとおりでございます。タイトルですが、「市教委宛て「意見」についての要望」となってございます。

章立てのところだけ読ませていただきます。１．市民の社会教育団体への行政の関与は不要です。裏面を御覧ください。２．市民の自主性を阻害するコーディネーターはいりませんといった章立てとなった要望となってございます。

説明は以上でございます。

生島議長　ありがとうございます。

この要望書につきましては、委員の皆様に事前配付しております。

要望書について、何か御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、次に進めさせていただきます。次第２の報告書案の検討についてです。お手元に配付した資料１を御覧ください。

報告書案については、前回第２０回定例会において、第１章以外の全体像を

お示ししました。そして、体裁や内容について、または文言についてなど、皆さんから御意見をいただきました。

今回についてですけれども、まず大きなところでは、前回提示していなかった第１章ですね、１の部分を加えてあります。ヒアリングの内容や各施設から提出された資料などを参考にしながら、事務局で作成いただいております。この１につきまして、書きぶりですとか、この間ちょっといろいろ話題になっているボリュームですとか、後ろのほうとの連動性ですね、この辺りのことについて御意見をいただければと思っています。

それから、後半のほうですけれども、今日御議論いただきたいこととして、２以降の話です。まず１つは、前回の会議の中で御指摘いただいたことにつきまして、またそれだけでなく、前後との兼ね合いですとか、文言の適切性みたいなことを考えて修正を入れたところが、網かけになっている部分です。それ以外にも、委員から今日コメントをいただいていますけれども、そのほかの方々も１か月の間を置いて、読んできていただいているかと思いますので、この後半についても、後の議論で確認していきたいと思っています。

今日はこんな段取りで進めさせていただきたいと思いますが、よろしくお願いいたします。

では、まず始めに１の部分なんですけれども、内容的には、皆さんとインタビューですとか、これらのことを踏まえて議論してきていることなので、内容としては御理解いただいていることかと思うんですが。そのまとめ方といいますか、ポイント、ボリューム、そういった辺りを御意見いただければと思っています。いかがでしょうか。

事務局、お願いいたします。

事務局　事務局でございます。第１章のほうは事務局で案をつくらせていただいていますので、考え方みたいなところを先に御紹介したいと思っております。

生島議長　お願いします。

事務局　インタビューを行ったのは５館ございまして、それぞれ来ていただいたときに資料を持ってきていただいていますので、基本的にはその資料から引き出したことになります。黒い四角のところは社教委からの質問内容ということで、提示したものに対して、それぞれの施設担当者から回答いただいたものが、この記載になっているという仕立てになっております。

施設ごとに回答するバランスというか、重点が異なっていますので、全部が全部同じ質問とか、一対一の関係にはなってございません。図書館につきましては、当日資料が出ておりませんでしたので、図書館の司会をされていたお二人が作られた資料から、内容を抜粋したところでございます。

そういったところが、第１章の考え方になっております。基本的には施設担当者が考えられた内容が、ここに盛り込まれているということで、なかなか全部が全部、うまく要約できていないところがありますが、まずは全体像として、かなりのページになっていますけれども、今日はこのボリューム感を、もっと縮めるとか、そういうところの審議をお願いできればと思っております。

事務局からは以上です。

生島議長　ありがとうございます。

あえて付け加えて言うならば、それぞれの施設の冒頭に、その施設の目的とか特徴というのを入れたというところがあるかなと思います。

さて、１につきまして、いかがでしょうか。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員　細かいところなんですけれど、郷土文化館です。３ページの連携を行う上で感じている課題で、「記録する会会員の高齢化」と書いていますが、確かに最初に頂いた資料ではそういうふうに書かれていましたけれども、学芸員の方の御説明の中では、ちょっと違ったというか、もっと具体的なお話をされていたかと思います。高齢化そのものが課題なのではなくて、高齢化に伴って次世代の育成といいますか、妹組織のようなものがつくれたらいいとか、育む活動ができたらいいというようなお話を学芸員の方がされていますので、そういう趣旨のことが入ればいいのかなと思います。

それから、６ページの公民館の趣旨のところで、「公民館は、芸術や文化、または運動・スポーツといった特定の分野、テーマを持たず、市民に対して」云々とお書きになっていますが、特定のテーマを持たないというのは、芸術小ホールですと芸術の分野であるし、郷土文化館ですと地域の歴史的な分野ですが、そういう特定の分野を持たないということであって、テーマは広く持っています。具体的には、国立市公民館の事業では、人権課題、地域課題、社会・人文学習、表現学習という区分があって、それぞれにまた細かいテーマがあって、実施しているということですので、広い意味での芸術と文化の事業だということです。またスポーツはしょうがいしゃ事業のなかで実施することもありますが、スポーツ事業としては行っていません。なので、そのように書かれたらいいのかなと。

生島議長　今、２点御指摘いただきました。

まず３ページの民具案内、高齢化が課題というよりは、高齢化に伴って次世代育成ということが課題になってくるんだということ、育むことをしていくのが必要ではないかと。これは加筆していただければいいんじゃないかなと思います。ありがとうございます。

公民館についてなんですが、「特定の分野、テーマを持たず」ということが、要するにニュアンスは分かるんだけれども、ちょっと違うふうにも読み取られる可能性があるんじゃないかということだと思います。おっしゃるとおり、具体的に芸術とか、ここはそういう館ですとか、本の貸出し館ですとかいうんじゃなくて、幅広く、暮らし、地域、日常のことについて課題を持って、学習活動をしているという意味を、どう表現するかというようなことになるのかなと思うんですが。

矢野委員の御提案とすれば、ここは具体的に……。

矢野委員　そうですね。「広く芸術や文化に関わる分野」というふうに、「広く」という中には、理系的な課題も文化的な側面から見るという面も含めてということですね。

生島議長　広く芸術・文化……。

矢野委員　「芸術や文化に関わる分野」。

生島議長　運動・スポーツは、公民館ではあまりやっていない。

矢野委員　調べたところ、公民館事業としてはないですね。

生島議長　はい。

あと、例えは地域の課題とか、様々多様な学習者を受け入れていくというようなニュアンス。

矢野委員　だから、地域文化の中にそういうものが入っているのかなと。なので、一言で言えば「広く地域の文化や芸術」という形になるんですかね。

生島議長　はい。
では、「広く地域の芸術や文化に関わって」というような。

矢野委員　そうですね。

砂押委員　２行目に「幅広く多様な」と、幅広くというのがここにも入っているので、だから、「地域の文化や芸術に関わる幅広い分野・テーマで、市民に対して多様な学習機会の提供」と、そんな感じじゃないですかね。「持たず」は取っちゃって。

矢野委員　そうですね。「運動・スポーツといった」というのが入っているので、何でもありみたいになってしまうので。そこは削除されていいのかもしれないです。

生島議長　分かりました。じゃあ、今の御提案、砂押委員の御提案も酌み取りながら、ここの文章を換えたいと思います。よろしいでしょうか。

矢野委員　はい。

生島議長　ありがとうございます。
ほかにはいかがでしょうか。
日野委員、お願いいたします。

日野委員　今出てきたところもちょっと関わるかなと思うんですけれども。連携を行う上で感じている課題のところで、１つの連携事業に対する課題が書かれている箇所と、ある程度一般的な中身で書かれている箇所があるかなと思うんですけれど。特定の事業に絞ったほうが分かりやすいという側面もあるとは思うんですけれども、ここは一対一対応でなくて一般化した書き方のほうが、ヒアリングの中で出てきた部分だというのは、私も理解しているんですけれども、一般化して書いたほうが、だからここが多くの館が、施設、組織が、課題と感じているんだというところが、より伝わるかなと思いました。

生島議長　今の御意見は、具体的にいうと、例えばどういうふうな感じで入れますか。それは公民館だけに限ったことではなくということですね。

日野委員　例えば、公民館のところも一対一で書かれていますけれど、まとめていただいている標題の部分から、事業名は少し抜いて、両者の信頼関係をつくりながらやっている、だけれども一定の労力や熱意が求められて、開催の調整が困難であるとか。事業名をここに入れなくてもいいのかなと。

生島議長　なるほど。今、連携を行う上で感じている課題というところに、一橋大学との連携ということで具体的に書いているけれども、そうではなくて、他機関と連携した講座づくりみたいな感じで一般化していいんじゃないかという御意見だったかと。分かりました。

これにつきましてはいかがでしょうか。皆さんの御意見を伺えればと思いますが。

そうすると、ほかも、全てそういうふうにしていったほうがいいんじゃないかという感じですか。それは課題の部分について。

日野委員　課題となってくると、ネガティブな内容が含まれる部分が出てくると思いますので、実際やっている方々がそういうふうに思われて、お互いにそうだねというふうになっている部分もあるかと思いますが、いざこうやって活字に起こされて、どうなんだろう、心情的にも。先ほども出ました記録する会の方々の高齢化なんていう部分が、いろいろ関係性がある中で話をしている中では課題として共有されている可能性はありますけれども、いざ活字になって受ける印象ってどうなんだろうなというのが、ちょっと思う部分でもあります。

生島議長　なるほど。そういう意味では、連携を行ったことによる効果とか、そういうところはむしろポジティブの部分だから、名前が具体的に出てきてもいいんじゃないかということにもつながりますね。

課題については、要するに連携先の人たちも目にしたとき、もしかすると自分たちが課題視されているとかというふうになるとよくないかもしれないので、ちょっとそこら辺は一般化するような形で表現したほうがいいんじゃないかという御意見なんですが。いかがでしょうか。

恐らくそれぞれの施設のところで、そうしちゃうと文意が伝わらないんじゃないかみたいなところを皆さん、今、確認いただいているんじゃないかと思うんですけれども。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員　文章の書き方の問題なので、「一定の労力や熱意が求められ、両方の協働により開催しなければならないので、連携にかかるコストの問題等が生じる」とか、そういう感じで。「一方の都合で開催の調整が困難になる」というと、個別のことになってしまうので。ポジティブに言えば、「両者の協働により行うことによるコストの問題」というふうに書けばいいのかなと。

生島議長　今の矢野委員の御意見、ということは、あえて伏せることはせずに、例えばここで言うなら、一橋大学と連携したみたいな固有名詞というか、具体的な例として、挙げておいてもいいんじゃないかと。

矢野委員　これ、会議録で公開されているんですよね。公民館のほうがお話されたことは。それをまとめるというところもあるので、表現は先生がおっしゃったように誤解のないようにしていかなきゃいけないですけど、趣旨としては入れていいのかなと。

生島議長　はい。分かりました。

ほかの方、御意見はいかがでしょう。今、いろいろな、違う御意見が出ていますけれど、いかがでしょうか。

課題のところで具体的に、そうした事業であるとか、団体名が出ているところは、郷土文化館も出ていますね。

砂押委員　その前の芸小ホールでも、国立音大という名前が出ていますよね。

生島議長　ああ、そうですね。

砂押委員　ということは、なかなか一般化というか、どうやって書けばいいのかなと考えながら見ていたんですけれど。出さないという手もあるとは思うんですけれど、この国立音大のところを見ると、どう書けばいいのかなという気がしたりして。

生島議長　そうですね。

砂押委員　うまい書き方があるかな。

生島議長　考え方として、今、２つの考え方が出てきていて、一つは、既にここで会議をしたり、議論したりしていること自体は会議録として公開されているわけですし、ここは具体的にそれぞれの施設からヒアリングした内容について書いて、後半のほうでそれを一般化するような形にしているので、むしろ前半部分は問題が分かりやすいようにするために、具体的な個別名を出しておいたほうがいいんじゃないかという案。もう一方では、そうは言っても課題というものがネガティブであるから、それを連携先の人たちが見たりしたときに、問題、課題として捉えられているということは、ちょっとビクッとするのではないかと。そういう意味で一般化したり、具体的な名称を出さずに課題を出す形にしたらいいんじゃないかという２つの考え方が、今出ているんですけれども。
　いかがでしょうか。悩ましいところではあるんですけど。
　日野委員、お願いいたします。

日野委員　私も、いろんな配慮ですとかそういったところも含めてということで意見述べさせていただきましたが、やっぱり分かりやすいのは、それぞれの事業名が出ているほうがというところはそのとおりだと思いますし、既に公開されているものというのもよく分かるところです。ただ、受け止め方という中で、どこまで課題として、ヒアリングで我々が知り得ない部分というのがあるところが、ちょっと心配なんですね。
　ただ、書きぶりとしてというお話、先ほどいただきまして、課題も、前向きな形でこういうところを解決していくと、次につながるんだというようなニュアンスが取れていれば、そこのところもクリアできる部分ってかなりあるのかなと思いますので、書きぶりのところで工夫をしていくという形で、この章は具体性を持たせるというのも必要なことだと思いますので、そういった形で進めていってはいかがでしょうか。

生島議長　ありがとうございます。
　今の日野委員のお話は、具体的な名称などは出しつつも、書きぶりを換えていくことでポジティブさを出して、次につなげていくという課題にしていったらいいんじゃないかというふうなお話でしたけれど。いかがでしょうか。
　皆さんのうなずきが散見されるんですが、そんなふうなことでよろしいでしょうか。
　砂押委員、お願いいたします。

砂押委員　読んだ人が不快にならないような、書き方に注意をするということで、いいんじゃないでしょうか。

生島議長　はい。分かりました。
　では、次回に向けてその辺のことを訂正していきたいと思います。具体的に

言うと、課題とか連携できていない理由、そういった部分をちょっと変更していくということになるかなと思います。
　もうタイミング的には、次回で大体の形を決着させるというスケジュール感になるかと思いますので、事務局ともやり取りしながら、できるだけ早くこの案をお示しできるようにして、皆さんにもうまい表現になっているか、チェックをしていただくようにお願いしたいと思います。
　１章について、ほかにはいかがでしょうか。
　砂押委員、お願いいたします。

砂押委員　前回、私、欠席させていただいたので、前回出ていることかもしれないですが。各項目の一番最後に連携できてない理由というのがあるんですけれど、（１）は連携できていない理由、（２）はまだ連携できていない施設・機関とその理由、（３）まだ連携できていない施設・機関とその理由と。ここら辺の文言はもうそれぞれの施設で、別に違うからいいということになっているんでしょうか。統一する必要も別にないとは思うんですけれど、中身を読めば分かるんですが、そこがちょっと気になったということと。
　あと、４ページの（３）くにたち総合体育館の、その他の課題で、①人手不足という書き方がしてあるんですね。６ページの一番下の行にその他課題、これはくにたち公民館で、これは①、②という書き方をしてないんですけれども、やっぱり「時間的余裕を確保することが困難になっている職員体制」ということでいうと、これも職員の人手不足というくくり方もできるかなと思ったりして。
　そういった書き方の調整はもうちょっと後でもいいということであれば、いいです。単にそこら辺が気になったところです。

生島議長　ありがとうございます。大きく２点、御指摘いただきました。
　１つ目は、項目立てがそれぞれの施設ごとに違うんじゃないかということなんですが、事務局、お願いいたします。

事務局　ちょっと確認は取りますけれども、恐らく同じ項目を載せるところ、施設によって入力するとき、省略してしまった部分もあったと思われますので、こちらからは基本的に同じ質問を投げていますので、項目を同じに統一するようにいたします。

生島議長　ありがとうございます。では、基本的に同じになるということで。
　もう１つ、２点目ですけれども、６ページの公民館のほうにある、その他の課題の１つが７ページに続くわけですが、これのみがいきなり文章になっていて、要するに項目の柱が立っていないということですよね。いきなり文章になっている。

砂押委員　言っていることはこういうことだったので、これで問題ないということであれば、全然問題ないんですけれど。

生島議長　ほかと併せるとすると、①職員の人手不足という項目立てがあって、それに対する説明というのがあったほうが、ほかとの調製がつくのではないかと。

砂押委員　はい。

生島議長　これは、そういうふうにすれば全体のバランスもいいのではないかと思い

ますので、そこは加えさせてもらえればと思います。
　ほか、いかがでしょうか。ボリューム的なことですとか。今は内容的なことで御指摘いただきましたけれども、それぞれの施設で、連携に関して具体的な事業であるとか、効果、課題、その他ということがそれぞれ載せられていて。このぐらいあってもいいのかなという感じはするんですけれども。
　中野委員。

中野委員　いいと思います。

生島議長　ありがとうございます。
　よろしいでしょうか。
　では、大体よろしいのではないかということですので、今いただいた御意見につきましては、次回までに対応していきたいと思います。ありがとうございます。
　では、次ですけれども、２以降の内容につきまして議論していきたいと思います。
　まずは前回御指摘いただいた点につきまして、網かけをして修正をしてあります。恐らく皆さんの中で、ここは自分が意見をしたとか、あるんじゃないかと思うんですけれども、その辺りでここら辺のニュアンスがちょっと違うとか、そういったことがありましたら、御意見をいただければと思います。
　ちょっと順に見ていきますと、（１）の市民とつながっていくことによって、安定性や継続性が生まれるということにつきまして、ここで二重線を引いている箇所は、全体の、特に施設名などは、他のところとの記述を統一させるということでカットしているところがあります。
　それから、３行目になりますけれども、「市民から」というところはもう少し具体的にということで、「地域で生活の移り変わりを経験してきた方から」、「学びにつながる側面を有している」という表現に換えています。
　そして、その後の図書館につきましても、ボランティアのことですね。いきなりボランティアが組織されているというよりは、もう少し自主的な活動との関係の中で、それが学びになりながら、かつ図書館のほうではボランティアとして活動にもなっているというような表現にしていこうと書き加えている状況です。
　あと、７ページの下から６行目のところになります。これもやっぱり前とのつながりの中で、「司書や学芸員だけでは実施し得ないこと」というのを補強する形で、文章をつなげています。「市民の生涯学習機会の充実につながっていることがある」ということで、前の段落とつなげています。
　次のページまでちょっと行ってしまいたいと思いますが、（２）施設が他機関とつながることにより事業展開の幅が広がるということについてです。ここは大きい修正はありませんが、ちょうど中盤ぐらいになりますが、「総合体育館のしょうがいしゃの利用が増加したことは」ということで、障害者スポーツセンターとの関係の具体的なことを言っているので、体育館のしょうがいしゃ利用がというふうに入れたほうが分かりやすいだろうということで加えています。
　あと、「ヒアリング」と「インタビュー」が両方あるということで、全体を統一して「インタビュー」という表現にしてもらってあります。
　今、２について、前回からの修正点に触れましたけれども、このような直し方でよろしいでしょうか。また、ほかにお気づきの点があれば、おっしゃっていただければと思います。
　後で、また何かお気づきのことがあれば、加えていただければと思います。

３のほうに進めていきたいと思います。
最初の２行は、先ほどとつながるものです。
（１）につきましては、「エネルギー・マンパワーが、得られる成果に見合うか」という、連携に関するコストの話が出ていたわけですけれども、ここの部分は表現が適切かというような御意見がありました。「エネルギー・マンパワーに対して得られる成果が見えにくい」というような表現の仕方にしてはいかがかということでした。それに伴いまして内容の部分も、「職員の労力に対して」ですとか、「見えにくい」という表現を使っているということです。
それから、（４）ですけれども、これは「コロナ禍においてそれがより一層進んでいる」、高齢化や固定化という課題が、コロナの状況を通じながらより進んでいっているんじゃないかという、コロナのことも意識して表現していったほうがいいんじゃないかという御意見がありましたので、そのようなことを入れております。
それから、９ページの（５）ですけれども、ここに関しては、すみません、会議の中では具体的に御指摘があったわけではないんですけれども、私が改めて見ていて感じたことをちょっと入れさせていただいたんですけれども。ここでサービスという言葉を使っていて、内容的には図書館のことを言っているわけですね、この（５）は。もちろん図書館だけじゃなくて、ほかの施設にも応用されることなので、生涯学習関連施設ではということで書いているんですが、アイデアとしては図書館から出ているもので。
図書館のことであると、図書館サービスというのが一つのテクニカルタームのような形で言われるんですけれども、公民館であるとか博物館などは、なかなかサービスという言い方がされないので、そこに誤解を与えてはいけないんじゃないかということで、「事業や機会の拡充」という表現に置き換えて、もう少し一般化されたところでも説明がつくようにということで直してあります。
以上が３の部分です。
あと、４のところは、それほど大きなことがないので……。

矢野委員　すみません。３の（２）連携事業を進める職員の力量形成のところで、今回配付していただいた会議録だと、１７ページのところですけれども、「職員の異動も頻繁に行われ業務継承自体が困難になっているという背景がある」と。その文言のところで、職員の異動が頻繁に行われること自体が課題ではないかと、私のほうでお話しさせていただいて、それを取り入れるというようなお話だったと思うんですね。文章はどういう形にするかですけれど、困難になっているという背景があり、それは課題でもあるという形でもよろしいかもしれませんけれど、何らかの形で課題であるということを入れていただければと思います。

生島議長　ありがとうございます。
ここでは背景があるというふうな書き方になっているんだけれども、「異動も頻繁に行われ業務継承自体が困難になっている」ということ自体も、課題なんじゃないかということですね。ありがとうございます。
そこに関しては、次のところにもつながってくることになるかと思いますので、ここを課題として説明していって、それに伴って、そういう状況の中でも、ちゃんと情報共有や経験値が蓄積されていくようなシステムを考えていく必要があるんだということにつなげていくという意味では、この冒頭の文というのも課題なんだというふうにして打ち出してもいいんじゃないかと思うところですが。よろしいでしょうか。
栗畑委員、お願いいたします。

栗畑委員　すいません。今のところですけれど、私のメモでは、「継承するシステムの構築が課題となる」というところを、システムというのがなかなか難しいので、要は「職務によっては長くいるべき部署もある」というようなことが、この間出たようにメモったんですけれど、違いますかね。

矢野委員　適材適所で、長く安心して仕事ができる体制をつくるというようなことだったと思います、お話としては。全員が一律に、一定の年数で異動するのではなくて、意欲と能力のある方にはある程度長く在籍していただける体制ということをお話ししたと思います。

栗畑委員　そうですね。だから、何かこれだけだと力量の形成とか蓄積とかいうことなんだけど、実際はそういうシステムだけじゃなくて、本当にそこにある程度の期間、長くいなきゃいけないものもあるよということを問題提起したんじゃなかったかなと思うんですけれど。

　例えば３年で替わるのが一般的ならば、この職についてだけは５年とか１０年にすべきだとか。具体的な年数は別ですけどね。何かそういう申入れというか、強い要望があったような。私の前回のメモではあったので。どうも「システムの構築」って片づけちゃうと、職員の異動が頻繁にあってもしようがないということに落ち着くような気がするんですね。

生島議長　ありがとうございます。

　今の御意見というのは要するに、人事について、少し中長期的に置く人は置く必要があるんじゃないかという、具体的な案ですよね。

栗畑委員　そうです。というのは、出だしが「近年は職員の異動も頻繁に行われ」から始まっているので、そこに対して、職務によっては長くいるべき部署もあると。この認識が大事だよということを申し入れたんじゃないかなと。

朝比奈委員　すいません。よろしいでしょうか。

生島議長　朝比奈委員、お願いいたします。

朝比奈委員　事実関係、今頃こういうのをお聞きするのもあれかもしれませんが、「職員の異動も頻繁に行われ」って、この頻繁というのは大体、どういうサイクルで動くので頻繁というふうに捉えるのか。というのは、やっぱり役所の場合、異動基準があって、それに則って、原則は対応していくと思いますので、それを踏み外して、異動が頻繁に行われているという理解をされてしまうような感じがするんですが。その辺はどうなんでしょう。ちょっと表現がきついかなという感じがするんですけど。

生島議長　ありがとうございます。

　この件、矢野委員、いかがでしょうか。

矢野委員　これは、前回もお話ししましたけど、図書館長がヒアリングのときにおっしゃったことを、まとめて書かれているんじゃないかと思うんですね。それは図書館だけの課題ではないでしょうから、一般化して書いていると思うんですけど、そんなに具体的に何年とかということは、もちろんここでは書けないので、「困難になっているという背景があり、それ自体が課題でもある」というふ

うにして、その上で、職員が替わっても、そのダメージは少なくなるようなシステムというのを考えなきゃいけないということと、両方だと思うんですね。

生島議長　朝比奈委員、今の矢野委員の御回答でよろしいでしょうか。

朝比奈委員　はい。私も素朴に、異動が頻繁に行われているかどうなのか、それ自体が問題なのか、ちょっと考えたものですから、今の発言をしました。

生島議長　はい。
　じゃあ、その上でなんですが、要するにここの部分で、職務の内容によっては、異動をあまりせずに長くいてもらうことが必要なんだということまでも、ここの中で言っていくかどうかということかなと思うんですけれども。

朝比奈委員　異動基準がありますので、そこまで踏み込むのはちょっときついかな、大変かなという感じがするんですけれども。

生島議長　朝比奈委員から、こうした御意見がありました。ほかの方々はいかがでしょうか。
　中野委員、お願いいたします。

中野委員　異動ということに関してですけれど、連携とかいうことに関しては、ほとんど書かれているのは組織との連携になっているんですけど、実際の連携というのは人と人とのつながりでできていますので、だから人が異動しちゃうと、そういうのが崩れちゃうというのが一般的だと思うんですね。そういう意味からすると、人と人とのつながりを大事にするということが、連携の前提になってくると思うんですね。
　プロジェクトを立ち上げて、それが完結するときにおいても、アンケートを取ったりして成果とか反省点とかいうのを吸い上げていくと思うんですけど、人と人との連携があって初めて次に生かされていくというのができてくると思うんです。そういう意味で、やっぱり異動、継続的に行う事業においては、人と人とのつながりから、そういう連携から事業が成り立っているということが前提になってくるんじゃないかなと思います。

生島議長　はい。そうなると、その人がころころ替わってしまっても困るよという意味で、今お話があった、そういう職務の人には長くいてもらうみたいなところまで触れていったほうがいいという御意見でよろしいですか。

中野委員　そうですね。

生島議長　ありがとうございます。
　いかがでしょうか。今、幾つか御意見があって、じゃあ、ここに関しては、力量形成というだけではなくて、そうした職員の配置であり、力量形成ということで組み込んでいくということでよろしいでしょうか。
　では、ここは少しそういったニュアンスも含めていけるようにしたいと思います。
　ほかはいかがでしょうか。３の部分ですけれども。よろしいでしょうか。
　じゃあ、また後ほど何かありましたら戻っていただいて、御意見いただければと思います。
　最後、１０ページから始まる４ですけれども、ここに関しましては、大きな

変更はありません。網かけがかかっているところは、ヒアリングをインタビューにするとか、横断・連携というのが、今回１つのまとまりのワードになっているんですが、部分的に「連携・横断」と順序が逆転しているようなところがありましたので、そこを修正してあります。

あとは１１ページの（５）になりますけれども、「学び合う場であり、新たな発想の源である」と、前回、矢野委員がこういった文言を入れたほうがいいんじゃないかということで御意見いただいたものを反映させていただいてあります。

このような形でありますが、４の部分で何か御意見ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、この部分につきましては、もし何かこの後お気づきの点があれば、御意見いただければと思います。

今日、前回から今回にかけての宿題といいますか、今回やらなきゃいけないねというふうに言っていたところが、文言だけではなくて構成ですね。並び順であるとか、特に３と４の関係性みたいなところを考えていかないといけないんじゃないかということで投げかけさせていただいておりました。

で、ちょっと私もバッとしか見れていないんですけれど、石居委員からのコメントがその辺りの御意見になっているのかなと思って、見ています。ちょっと石居委員からいただいたコメントを御覧いただければと思うんですが。

まさにそうですね。上から４行目、報告書の３と４の対応関係と内容の整理が本日の課題の一つになるのではないかということで、対照表を分かりやすく作っていただいてあります。

前提として、３の課題のほうを動かさないとするならば、４のほうはこのように組み合わせたらいいんじゃないか、組み合わせることができるんじゃないかということで、御提案いただいているところです。

ちょっと一つずつ見ていきますと、まず、３の（１）エネルギー・マンパワーの成果とのアンバランスということ、成果が見えにくいというようなこと、これを乗り越えていくために、４のほうで言うならば、相互の利益となるような関係性というのをつくっていったらいいんじゃないか。ということで、様々なつながり方ということで、これを……。

倉持副議長　４の「さまざまなつながり方」、は、今は（１）だけど、（３）にするという感じ？

生島議長　あ、そうかそうか。

倉持副議長　だから、逆に、コストとメリットを（１）に上げると。

生島議長　そうですね。はい。失礼しました。

３の（１）アンバランスと組み合わせるならば、４は（２）連携をすることにコストとメリット、これを（１）に持ってくるのがいいんじゃないかと。

３の（２）職員の力量形成については、そうなると４は（６）専門的力量としてのコーディネート能力・ファシリテーション能力を、持ってくるのがいいのではないかと。

３の（３）情報共有に関しては、ここが（１）のさまざまなつながり方ですね。

３の（４）市民組織の維持・発展と合わせるならば、４は（３）になっています相互の利益となる関係構築。

そして、３の（５）事業や機会の充実ですけれども、これと合わせるならば、

４で（４）になっている市民の認知と利用者拡大。
そして最後が、課題の３で（６）アウトリーチの活性化とありますが、これと連動させていくのは、４の（５）学習機会や学習成果の活用を持ってくればいいのではないかということです。
その下のほうまで石居委員のコメントを見ていきたいと思いますが。「その上で課題の内容を念頭に置いた上で、４（視点・提案）の内容やニュアンスを整理していくと、まとまりが出てくるように思います。例えば３（１）に対応する形で、４の」、今（２）になっているものを（１）と置くとすれば、連携をすることのコストとメリットですけれども、「もう一歩踏み込んで、評価の指標に小刻みに（段階を踏むように）設定するなどの工夫をすることで、目標や成果を早い段階から意識したり、実感できたりするのではないか、あるいはそうした目標や成果の明確化の下に、職員間の引継ぎや情報の共有を活性化できないか」、それが課題４の（３）に応えることにもなるというよう形でアレンジしていくことで、連動性を意識しながら、４の部分、または３の部分も、表現も換えていくことも必要なんじゃないかという御提案になっているかと思います。
それから、その下、「また」からの段落も確認しておきたいと思います。「①施設（行政）、②施設利用者（市民）、そして③市民のサークルという主体を想定したときに、どうしても発想が①を軸に②に対して何ができるか、その際、③にどのように協力してもらえるのかといった方向中心になってしまっているように思います。本会の役割に照らせば、①を中心に発想することは当たり前とも言えますが、②、③それぞれにとって、メリットと感じられるような場や機会を用意する（もちろんそれを利用するかしないかは②、③の判断による）ことが、①の大切な役割だと意識しつつ、上記の調製作業を進められるとよいのではないかと考えます」という御意見でありました。
文言の整理ということの前提には、組合せとか流れをこのようにしてみたらどうかということがあって、その上で、これを意識すると、また表現も変わってくるんじゃないかということになっていますので、この組合せのことについて、また、こう組み合わせるんだったら、この辺をもう少しこういうふうにしたほうがいいんじゃないかというような具体的な御提案も含めて、御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。
１つずつ見ていったほうが分かりやすいですかね。時間もまだありますので、１つずつ確認をしていこうと思いますが。
まず、３の（１）の副題、「横断・連携」を実施した際に充てられたエネルギー・マンパワーに対して得られる成果が見にくいという課題につきまして、それを乗り越えていくために、１０ページの４のほうは（２）ですね。連携することのコストとメリットというのを組み合わせたらいいんじゃないかということです。
ここでは、成果を見えやすくするというか、成果がより豊かなものになっていくようにしていくためには、中長期的な視点を持っていくということも必要なんじゃないかというような形で書かれています。
特にこの点に関しては、石居委員もより具体的に、評価の指標を小刻みに設けていきながら、段階を踏むように設定していったり、成果を意識していくようなプロセスをつくっていくことで、連携をより豊かに進めていくということも、単純に中長期的な視点を持つというだけじゃなくて、もう少し小刻みな指標を持っていくということも提言されているわけですけれども。
このペアにつきまして、いかがでしょうか。
倉持副議長、お願いいたします。

倉持副議長　ちょっと改めて対応関係という観点で見てみると、３の課題が、課題じゃないなというのが幾つかあって。対応、どうしますかね。課題的に書き直すのか、取り下げて４番のほうに持っていくのかという議論はちょっと。

（１）、（２）は課題という感じがしますけど、（３）は、情報共有の必要は、何が課題だということは書いてない。必要だということは書いてありますけど。（４）は、高齢化、固定化とあるのが課題。（５）は、潜在的ニーズとか多様な市民ニーズに応じた事業や機会をもっと検討する必要があるんじゃないかと言うんだったら、まあ、課題かな。（６）も、アウトリーチ、もっとやったほうがいいねっていうのは……。

書きぶりかなという感じもするんですね。タイトルも、例えば活性化とか、拡充とか、これって普通４のほうの提案的な表現なので、課題的な表現に直しつつ、文章のほうも課題を示すというふうに整える必要があって、その上で、石居委員の御提案はすごく妥当に組み合わせられているなと思うんですけど。せっかく効果的に組み合わせるのであれば、調査した結果、こういう課題が見えて、こういうことを提案するという流れをもうちょっと明確にしたほうが、最後の４がはっきりするかなという気はします。

例えば（１）のタイトルを、これは石居委員のパクリですけど、「マンパワーと成果のアンバランス」なのか「ミスマッチ」みたいなタイトルをつけるとか。（２）も「職員の配置と力量の課題」というふうにつけるとか。

（３）はちょっと難しいんですけど。あまり課題が書いてないので、課題にするんだったら「組織間、組織内の情報共有ニーズ」とか、「情報共有の必要性」とかかな。

（４）は、提案的な書き方のタイトルがついているんですが、中身は高齢化とか固定化の話なんですよね。連携する市民組織の高齢化、固定化とはっきり言っちゃうかどうかというところは賛否あるかもしれませんけど。

（５）は、「潜在的ニーズに応じた事業や機会の検討」とかかな。

（６）は、「アウトリーチ事業の可能性と限界」とか言うと言い過ぎですかね。やみくもにやればいいということではなく、と書いてあるから、何か範囲の見定めみたいな、もうちょっといい言葉があると思うんですけど、そういう意味なのかなと思ったんですけれど。

みたいな形で課題的項目立てをしてというのをちょっと思いました。

生島議長　はい。ありがとうございます。課題の部分の標題を、もっと課題らしくしていくということが、次の、それを乗り越えていく提案というのにつながってきやすいんじゃないか。そうすると、より組合せの効果というのが出やすいんじゃないかというようなことで。そのとおりかなという感触を得ているんですけれども。この御指摘を踏まえて、次回までに直していきたいと思いますが、いかがでしょうか。

砂押委員、お願いいたします。

砂押委員　もう石居委員の書いてあるとおりで、納得しているんですけれども。課題の順番で全部、視点・提案を並べ替えていますから、というか、課題を書く順番もどうするか、どっちを優先するかというのもあると思うんですけど、やっぱり重要そうなものから１番に持っていってもいいのかなと思うので、対象というか合わせてみて、どれを１番に持ってくるのがいいかというのは、もう一回、全体を見てみないとこれだけ見ていると、どれを１番に持ってくればいいのか、なかなか分からないので。対称的に書いてみて、それを見て判断をしたいなという気がしています。

それと、例えば（１）で、「エネルギー・マンパワーに対して得られる成果が

見えにくい」という言葉が書いてあって、最後も「見えにくい」で終わっているんですね。なので、そういう意味では、これに対する視点・提案も、見えにくいと言っているのは（２）のコストとメリットが答えなのかな、このところにも、かけたエネルギーやコストに対する成果が見えにくいということに対する提案ですよということが分かるように、こちらにも「見えにくい」の言葉が入っていないと対応している感じがしないので、そこを少し対応した感じに書き直すことが必要なのかなと思います。

石居委員が書いてあるとおり、「中長期的な成果を見越すような視点へと切り替える」ということとともに、「評価の指標を小刻みに設定するなどの工夫を提案する」ということに、多分ここを取り入れればなると思うので、やっぱり言葉を、課題と、回答というか提案についてもある程度、こうやって連携をするのであれば言葉を合わせつつ、提案を書いていったほうがいいのかなという気がいたしました。

ただ、そうすると、課題の（６）アウトリーチ事業の答えが、（５）の学習機会や学習成果の活用ということなので、確かにそのとおりでちゃんとなってはいるんですけれども、アウトリーチの言葉は何も出てきていないので、その答えになっているのかどうかが分かりづらいところもあるので、そういった分かりやすさというか、順番が合ってるんだよということを言うのであれば、言葉も少し引用したほうがいいのかなという気がいたしました。

生島議長　ありがとうございます。大きく２点いただいたと思います。

１つ目が、今は３を軸にして４を並び替えていただいてあるんですが、３の順番もこれでいいのかということでありました。実は私も、今回そのことも最後に皆さんに確認いただくようにお願いしようと思っていたところです。

砂押委員の御指摘を酌んで、一つ言わせていただきますと、例えば横断・連携というのを推していくというか、進めていこうとする一つの提案が、今回の提案なんだけれども、（１）でいきなり、マンパワーとかエネルギーに見合うかというような、見えにくいとか、横断・連携していることがいきなりネガティブな感じになってしまっているような雰囲気になってしまっていて、もう少し積極的にそれを広げていくようなところから持っていくことも必要なのかなと思いましたので、砂押委員からいただいた１点目、３の順に合わせて４を並び替えるだけじゃなくて、３の順番も考えながら、それと連動させて４も並び替えたほうがいいんじゃないかということも、後でまた御意見をいただければと思います。

それからもう１点ですけれども、こういうふうにリンクさせていくことによって、言葉も併せてリンクさせていったほうが分かりやすいのではないかということで、そこについてもしかりだと思います。ただ、特に今回これを書き換えていくに当たって、皆さんから今のうちに御意見いただきたいことは、じゃあ、例えば現状の４の（５）に「アウトリーチ」という言葉を入れていくとすると、どういうふうに入れていけそうかというような。個々の具体的なアイデアを出しておいていただけると、この後まとめやすいかなと感じています。

こうやって文章化してきたことによって見えてくることなので、これまで触れられていないことを入れていかないといけないようなことになるかもと思いますので、ぜひ今の段階で、そういった内容に関わったコメントをいただければと思います。いかがでしょうか。

中野委員、お願いいたします。

中野委員　すみません。答えにならないとは思うんですけど。

私、マンパワーであるとか、予算であるとかというのは限りあることで、拡

大を求めるというのは、幾らでも拡大できるものじゃないということが前提になると思うんですけど。確かに予算も人もあったほうがいいに越したことはないんですけど、やっぱりそれは限りあるものなんだと。それを要求するというより、提案を重視したほうがいいんじゃないかなというふうに思っていました。
　それで、こういうふうに課題と提案をリンクさせるというのは、確かに読みやすいと思うんですけれど、そうなると、課題に対する提案というふうに書き換えなきゃいけなくなってくるわけですよね。でも、限りあるマンパワーであり予算であるものに対して何ができるのかという提案型のほうが、私はいいというふうに思ったんですけれども。

生島議長　今の御意見というのは、特に３の（２）の部分について。

中野委員　いや、ですから、課題は課題でいいんです。いいんですけど、あえてマンパワーを拡大しようとか、予算をもっと拡充しようとか、そういう課題ありきというんじゃなくて、横断・連携ということを考えたとき、こういう考え方もできるのではないかという提案型のほうがいいんじゃないかと。そうすると、課題と提案というものを必ずしもリンクさせなくてもいいんじゃないかなというふうに思ったということです。

生島議長　なるほど。１つのことに限らず、持ち方としてということですね。

倉持副議長　確かに、例えば３の（６）のアウトリーチ事業が、これは多分、石居さんが最後苦労されて、こうやってくっつけたんだと思うんですけど、４の（５）かな。

生島議長　そうですね、４の（５）。

倉持副議長　と、マッチするかというと、ちょっと苦しいところはあって。その上の４の（４）の認知を広げるとか、利用者の拡大とかいうところのほうが、若干近いかなとか。アウトリーチの話だったら、施設を活用するという話と、施設の外に行って、その施設とか事業を知ってもらうという話のほうが近いかなということで考えると、中野委員がおっしゃったように、課題に対応してそれぞれの項目、提案というか視点があるんだという考え方は、今の状況では難しい。それを、全部整えるという方向に行くのか、中野委員がおっしゃったみたいに、課題は課題としてこういういろいろがあるけれども、提案は提案として出す。ただ、緩やかに順番がリンクしているという形、キーワードが可能な範囲でリンクしているという形にするという考え方もあるなと、確かに思いました。

生島議長　はい。ありがとうございます。
　完全にリンクはしないけれども、今おっしゃったように、緩やかに流れはあった。緩やかにつながって、場合によっては、だから、１つの項目が２つにまたがる可能性もあるということですよね。そういうニュアンスで、あまり無理をしない形で流れをつくってみてはどうかというようなアイデアも、今いただいているんですが。そうすると、現状のものを生かしながら、課題の部分はもちろん整理していかないといけないんですが、いけるんではないかという中野委員の御提案について補足いただきました。非常にしっくりくる、そっちのほうがむしろしっくりくるかなという感じもしますけれども。いかがでしょうか。
　日野委員、お願いいたします。

日野委員　マンパワーのところで中長期的な視点という言葉が出ていましたけれども、先ほど、職員の力量形成のところで配置のことが話題になりまして、やっぱり提言としてというところになりますけれど、中長期的な視点というのは配置に関しても言えることなのかなと思いますので、それをかっちり分けてまとめるというよりは、ある程度緩やかなつながりという形で、いろいろ生きてくるようになるのかなというふうに感じました。

生島議長　はい。ありがとうございます。
　そういう意味では、必ずしも一対一対応ではない、けれども流れでつくっていくというような形で、少し組み替えるということでよろしいでしょうか。
　ありがとうございます。
　そのことも前提としつつも、次に、砂押委員から御提案のあった、３の今の、順番でいっていいかということで。このことについても最後、御意見いただきたいと思いますが。
　倉持副議長、お願いいたします。

倉持副議長　３のほうじゃなくて４のほうの観点の順番で考えてみた案です。
　連携のプロセスの順番で考えるなら、４の（１）が１番、様々なつながり方、入り口ですよね。いろいろなところにつながれます、いろいろなところに出て行ってください。
　次が、４の（３）、横断・連携するためには、まずはお互いの利益になるように協力することが必要です。出会った後にこれを考える。
　次が、４の（５）、横断・連携を考えるときは、お互いそのプロセスそのものが学習機会や成果という観点が必要です。
　次が、４の（４）、そうやって連携することは、互いの認知を広げて、利用者の拡大や価値の向上につながります。
　で、４の（２）、コストとメリット。さっきのマンパワーとかのバランスというのも、実際考えなきゃいけないし、中期、長期で考えなきゃいけません。
　で、４の（６）、そういった構造を成り立たせるためには、職員が大事ですよねという構造を考えたのが１つ。パターン１です。
　パターン１は連携するプロセス、スタートから順番に考えるパターンだったんですけど、連携のコンセプトというか、考え方のほうから行くんだったら、４の（３）、そもそも連携とか横断というのを考える為には、まずお互いの利益を考えてから始めるんですよ。次が４の（５）、何で連携するかというと、学習機会や学習を充実させるため、学習成果を活用するためという、考え方みたいなところが（３）と（５）だと思うので、この辺を先に配置する。
　で、次は（１）でも（４）でもいいんですけど、（１）の様々なつながり方ができますよとか、（４）の相互の認知を広げるというメリットもありますよ。
　で、その後が（２）でコストとメリット。最後が（６）の職員というのは変わらず。
　という２パターンを考えました。

生島議長　ありがとうございます。大事な御提案をいただきました。
　２パターン。１つ目が連携のプロセス順に、始まりからやっていくということと、２つ目が横断・連携ということを考えていく上で重要なポイント、コンセプトの部分というのを前提として、その順によるというものだったんですが。
　３のほうに連動して並べ替えたときも、どういうふうになるかということを見越して、ほかにも意見があるかもしれないですが、考えていく必要もあるかなと思うんですが。その辺のことも勘案しながら、倉持副議長の御提案を少し

原案にしながら、皆さんの御意見を伺えればと思うんですが。

砂押委員　私は最初の案に１票入れたいと思います。

生島議長　連携のプロセスのほう。

砂押委員　最初のほうの、順番で。

生島議長　ありがとうございます。砂押委員から、連携のプロセスの順にやっていったほうがいいんじゃないかということです。
ほかの御意見はいかがでしょうか。
日野委員、お願いいたします。

日野委員　私は後者、違うほうですみません。やはり、何のために連携をするのかというところを考えると、相互によさが感じられるものがあるというところを重視すべきかなというふうに考えますので、連携のコンセプトのほうからまとめていけると、それがより強く伝わるかと考えます。

生島議長　ありがとうございます。
分かれてきたんですけど、ぜひ皆さん方からの御意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
連携のプロセスのほうとするならば……。

倉持副議長　それと、そっちを見たときに。

生島議長　３がどういう順になるかということもあるかなと思っているんですけれど。
連携のプロセスのほうは、４の（１）が１番になるので、３のほうは（３）連携事業に関する組織間及び組織内部の情報共有の必要性、これが１番になるということですね。どんなところとつながれるかということについて、組織内で共有していくことが必要だと。
そして、２番が、３の（４）組織の維持・発展。固定化、高齢化というのが問題になっているので、そうしたメンバーの拡大、世代の継承の支援というのが必要になる。だから、課題のほうが、連携の順番になるとは限らないということなんですよね。
３の（６）アウトリーチの活性化、この部分が３番になって。４番は（５）事業や機会の拡充。５番は連携することのコストとメリットなので、（１）エネルギー・マンパワーに対して見えにくい、アンバランスがあるんだということ。６番の最後が（２）職員の力量形成。これはどっちも一緒ですね。これが、連携のプロセスから見た順番です。
コンセプトのほうで行きますと、４の（３）が１番になるわけで、それと連動するのが、（４）市民組織の固定化、高齢化というのが課題になっているんだというところ。２番目に来るのは４の（５）ですので、３でいうならば（６）になりますね。アウトリーチなどがもっとされていく可能性を探っていくのもいいんじゃないか。３番目は、４の（１）になりますので、様々なつながりとなりますと、３の（３）……。

倉持副議長　だから、やっぱりあんまりぶら下げると。

生島議長　うん。
　　どうでしょう、皆さん。

倉持副議長　３の（１）となっているのが多分５番目ぐらいに来て、マンパワーと成果の話で、３の（２）は職員の話だと思うんですけれど、それが６番目になるというのは、何となく視点的に、マクロなものの評価が入る観点だったり、職員の観点なので、後半に持ってくるということ自体は問題ないと思うんですけれど。課題の３のほうにしても、視点・提案の４にしても。
　それ以外の部分の３の順番というのは、最初の石居委員の御提案は３をベースに考えたらということだったんですけれど、私は４を中心に考えて、でもそこが、今回の文書の結論部分とすると、こちらのストーリーを大事にするとなると、３のほうは、当初の想定のひもづけから一旦組み直して、残りの４項目については少し、順番は順不同でもいいと思うんですけれども、さっき言ったみたいに重なる部分とかも出てくるので、ストーリーが通じるように並べ替えていただければ、３番の順番はそんなに、いいんじゃないかなという気もします。項目ごとのつながりがあればいいんじゃないかなという気がします。

生島議長　はい。ちょっといろいろ錯綜して、こっちを並べ替えて、こっちと組み合わせてみたいなので錯綜してしまっているので、まず前提としては、組合せはちょっと大事にしておきながらも、一対一対応ではないので、文言の整理まではしないということ。その上で、大事なポイントあたりから並べて、３、４を併せてみたときに、不自然がないような感じで並べてみるというようなことをやってみればいいのではないかということかなと思います。そうですかね。

倉持副議長　そうですね。さっき言ったように私は３の（３）の位置づけがあまりよく分からないんですけど、（５）とか（６）は何となく、（５）は事業とか機会ということで、（６）アウトリーチも結局面的・内容的なので、セットで置かれるべきかなと思うので、離さないほうがいいと思うんですけど。
　（４）は、市民組織とか連携する相手の組織に対して言っていることなので、あまり最初に出てこないかなという感じがします。
　そうすると、（３）がよく分からないんですけど、（３）、（５）、（６）か、（５）、（６）、（３）、（４）、（１）、（２）とかいう順番が、課題のほうの流れでいうと妥当かなという気がします。前半に話していた、組み合わせる議論から離れちゃうんですけど。と思いました。

生島議長　今の倉持副議長の話は、無理やり組合せの順番で考えなくてもいいんじゃないかと。

倉持副議長　課題は課題のストーリーというか、問題の大きさという。より大事な順番に並べたら。大事なというか、基礎的な構造から素材みたいな話に展開していくという流れ自体は、３も４も変わらないんですけど。
　だから、最終的に中野委員がさっきおっしゃった意見に戻るという感じなんですけど。

生島議長　確かに、３の中の課題も、ある程度カテゴライズされるかと思いますので、その順番でやってみると。さらに、４のほうも、その上で４のほうを見たときに、もしかすると案外、コンセプトのほうとリンクしてくる可能性もあるかもしれないですし、場合によっては連携のプロセスのほうと絡んでくる可能性もあるし、ちょっとやってみて、次回御検討いただければと思います。今のよう

な視点を持ちながらつくってみたいと思いますので。そのポイントをぜひ次回、忘れないようにしていただきながら、チェックをしていただければと思います。ありがとうございます。
　そうしましたら、今日確認しようと思っていたことは大体このくらいなんですけれども、そのほか、まだ細かいところで気になる点などありますでしょうか。現段階で。ここで出していただけばと思いますが、いかがでしょうか。
　矢野委員、お願いいたします。

矢野委員　細かいところですと、6ページの障害者自立支援協議会というふうに書かれているんですけど、国立市は「しょうがいしゃ」と平仮名で書くんですけど、国立市は障害者自立支援協議会と言わないで、国立市自立支援協議会と書かれていますね。障害者を入れないようなので、統一したほうがいいかなと思いました。

生島議長　はい。ありがとうございます。
　これは固定の名称ですよね。固有名詞。

矢野委員　固有の名称のようですね。ネットでも確認しましたけど、そうなっています。

生島議長　ありがとうございます。では、そのように変更させていただきます。事務局でもこの件、確認をお願いできますでしょうか。

事務局　はい。確認いたします。

生島議長　ほかにはいかがですか。よろしいでしょうか。
　では、今日のこの案についての議論は、ここまでとさせていただきたいと思います。活発な御意見、ありがとうございました。
　そうしましたら、続きまして次第３の事務局からの連絡事項に移ります。
　事務局から説明をお願いいたします。

事務局　次回定例会の日程と場所について、御説明いたします。
　次回の会議ですが、来月、２月２８日火曜日、午後７時から、場所はこちら、市役所３階の第１・第２会議室での開催となります。
　それから、本日お車でお越しの方は、駐車券を処理いたしますので、事務局のほうへお願いいたします。
　以上です。

生島議長　矢野委員。

矢野委員　以前いただいた社会教育委員の会のスケジュールでは、１月か２月、２１回定例会から２２回定例会のどちらかで推進計画の中間評価を提出するというふうになっているんですが、それについてはどんな状況なんでしょうか。

生島議長　事務局、お願いいたします。

事務局　そうですね。今期のいずれかの回の中ではお示ししたいと考えていますが、今の段階で、この月で出すというところは、まだそこまでの準備には至っていないという状況でございます。

生島議長　ありがとうございます。
今期はあと、４月まで、３月まで。

事務局　そうですね。２４期の方の任期は４月末まででございますので、残りの３回のいずれかで御提案できればと思います。

生島議長　分かりました。ということですので、どこかで入るということで、やることは変わらない、やるということのようです。よろしくお願いいたします。
そのほか何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。
では、これをもちまして本日の会議を終了いたします。お疲れさまでございました。

――　了　――